

弊誌と「にっぽんケーブルチャンネル」(JCN)が地域おこしでコラボ!

今月の「月刊『コロンブス』TV」

弊誌「月刊コロンブス」(発行:東方通信社)とJCN・ジャパンケーブルネット(株)がコラボする日本初の本格的な地域おこし番組「月刊『コロンブス』TV」。30分枠のレギュラー番組で、弊誌編集長の古川猛が番組進行とキャスターを務める。今回は、創業123年の歴史ある会計士事務所代表の藤間秋男さん。中小企業の後継者問題や節税、財務改善などをコンサルティング。目指す「100年企業」について聞いた。そのほか地域通信員からの地域情報、「大地の顔」は「竹の子農家」を紹介する。なお、この番組で紹介した特産品はNPO法人「ふるさと往来クラブ」(内閣府認証)の地場品ECサイト「おいしいふるさと便」で販売しています。

100年企業を

目指すために

古川猛・本誌編集長 企業30年 説もありますが、藤間さんは「100年企業」を説いています。どうしたら、続けることができるのでしょうか。

藤間秋男・TOMAコンサル

タンググループ(株)代表取締役 後継者がいないという

ことを聞きますが、私は後継者をつくるもの、育てるものだと思います。自身、会計事務所として123年、5代目です。日本には100年企業が5万社あるといわれています。そもそも、日本人は続けることが得意な民族なのです。

古川 弊社では藤間さんとも連携して「百年企業



藤間秋男さん(右)、古川猛編集長(中央)

100選」という本を発行しました。藤間さんが大事にするべきだと考えていることは何でしょうか。

藤間 まずは企業の理念、ノレンが必要。そして、それを守る人を育てることが大事です。後継者は「いる」のではな

く、育てるものだと思います。社長の仕事は今日の売上より明日の人材を育てることだとい

います。500年続いたとしても来年残れるかどうかかわからないのです。だから老舗の社長は子どもを小さい頃から工場では子どもを小さい頃から工場では手伝わせたり、家族会に連れて行ったりしているといっています。それが大事です。

古川 地域の100年企業を目指すには、みずから考え行動することが第一ですね。地域の活性化もお仕着せではなく自分で考え、行動しなければならぬことだということですね。

通信員に聞く!

ふるさとからこんにちは

古川編集長が編集部で、電話で月刊「コロンブス」地域通信



盛岡市危機管理課齋藤拓也さん

員に地元の今を聞くコーナー。

今月は東日本大震災から3年、岩手の復興をサポートする首都圏での活動拠点を東方通信社の施設に置いている、岩手もおか復興活動ステーション担当の盛岡市危機管理課齋藤拓也さんにこれまでの活動について聞いた。

齋藤さんは、地元の「もりおか復興支援センター」での、沿岸被災地から盛岡市に避難した人々に対する支援活動と、「もりおか復興推進しえあハート村」、そして、首都圏での「岩手もりおか復興ステーション」の活動について話した。

大地の顔

「竹の子農家やまむろ農園」山室由雄さんは種類により旬が

違う竹の子を自然農法で育て「採ってから一日たっても、エグ味が少ない」という。



竹の子農家 山室由雄さんと今年90歳の母ヒサさん

月刊『コロンブス』TV

- JCN「にっぽんケーブルチャンネル」
(地デジ10CH/首都圏約315万世帯加入)で絶賛放送中!!
- 東方通信社HP (<http://www.tohopress.com/>)
で全国でご覧いただけます!!

おいしいふるさと便

検索でGO

ご紹介した特産品はNPO法人ふるさと往来クラブが運営する「おいしいふるさと便」で販売しています。